

「コロナには負けない」

鹿児島市立松元小学校 六年

松元 智暉 まつもと ともき

「中国で流行のコロナが日本にも上陸」去年一月ごろこんなニュースが流れ、「へえー、絶対ということはないですが、できることはそうなんだ。」ぐらいしか思いませんでした。でも、二月の終わりに、急に「五年生も今日で終わりです。」と言われ、「はあ、なんで。勉強も中と半ばだし、こんな終わりってある。」とこれからどうすればいいのかも分からず、すごく迷いました。そして、三月の終わりにぼくが大好きだった志村けんさんがコロナで亡くなったと聞いたとき、とてもショックでした。いつもテレビの中で、笑わせてくれて、楽しませてくれた人が急に死ぬなんて信じられず、この時から急にコロナがこわくなり、真けんを考えるようになりました。ぼくがコロナを知ってから、一年以上も過ぎました。今では、毎朝の検温とマスク着用は当たり前になりました。早くコロナが収束して、前のようなマスクのない日常生活にもどりたいです。でも、今一番思うことは、「絶対にコロナで入院したくない」ということです。理由は、二週間もかかりたくないし、何より死にたくないからです。だから、当たり前だけど、手洗い、うがい、検温。そして、健康なからだをつくるために、早ね早起き朝ごはんをしっかり行きたいです。

最近も東京等では、緊急事態せん言が出され、毎日何百人の人がコロナにかかり、命を落としています。コロナにかかってしまった人はかわいそうです。本人だけでなく周りの人にも迷わくがかかり、悲しむと思います。絶対ということはないですが、できることはマスクをしていない子がいました。ぼくは、コロナのこわさを知らないからマスクをしていないかというと、自分がコロナにかからない自信があるからだと思います。マスクがいしなくて大丈夫とと思っているかもしれない。ぼくだって、ずっとマスクは暑いんですよ。でも、今は仕方がないと思っています。コロナにかかり、家族や友達にも会えず一人で入院するのは絶対いやです。だから、自分ができることはしっかりやって、がまんするしかありません。

東京に住んでいるおばあちゃんの家泊まってオリンピックを見る。毎年夏休みは家族旅行に行く。お正月には広島のおじいちゃん、おばあちゃんに会いに行く。今まで当たり前を考えていたことができない世の中になってしまいました。そんな時、昨年初めて家族でバンガローに泊まり、川で泳ぎ、外でバーベキューをしました。密を防いでできることを話し合っていました。とても楽しかったです。今は不自由な生活ですが、家で家族でゲームしたり外でサッカーやキャッチボールをしたりも増えました。コロナだからこそ、出来ることを考えて楽しむことも増やしていきたいです。絶対コロナには負けません。